

ここから これから

# からから 便り

## もくじ

- 縁と縁の道をゆく [道北に縁の地を訪ねて]
- 交流会のご報告  
南幌町で「芋煮会」を開催しました！
- 道内避難者心のケア事業 情報共有ミーティング

- 寄稿「1ページのたより」
- 各相談窓口
- 北海道における被災避難者の受入状況
- 編集後記



岩手や秋田地区を通る路線バスは、今年9月末から町が運行する「デマンドバス（要予約）」に切り替わった。道路沿いに立つ「岩手」という看板が、ここから岩手地区に入ることを教えてくれる。

中頓別町の豊平地区。ここは宮城県と熊本県団体によって拓かれた地区。今も牧草地が広がる。冬の準備のためか、ビニールに包まれた牧草ロールがあちこちに点在していた。



故・永井庄助翁之碑  
里山の風景の中にあつた相馬神社は、小さいけれど綺麗に管理され、大切にされていることが感じられた。石碑は、切り拓かれた田園風景が見渡せるところに建っている。



道北に縁の地を訪ねて  
宗谷地方にある人口約1、500人の中頓別町。明治30年代に砂金が発見され、全国各地から採取者が集まりましたが数年で産出量は減少、砂金採取から農耕に転じる人が現れたことで、中頓別町の農業がはじまりました。その後、入植による農場開拓が行われ、九州のほか東北からは秋田、福島、宮城、そして岩手からの入植者が開拓をすすめる、町内には「岩手」「秋田」という地名があります。行ってみると岩手地区は酪農が主だったのか、道路沿いに遺されたサイロ跡がここに人々の暮らしがあったことを伝えていますが、今は道路が整備されていますが、か

つてこの地に足を踏み入れた時は、遠くを見渡せないほど木々に覆われていたのかと思うと、ここに生きた人たちの力に圧倒されます。  
北海道に来るだけでも大変な時代に、寒くて雪も多い道北への入植は困難の連続。きつと、みんなに尊敬され、気持ち強いキーマンがいてみんなを支えたに違いない…とよく思うのですが、具体的な人物像まではなかなか知る機会がありませんでした。でも、中頓別から南へ約70km、名寄市で偶然見つけた石碑に、そのひとり「永井庄助」を知ることができました。  
名寄市曙地区にある相馬神社内に「故・永井庄助翁之碑」があります。碑文によると、庄助氏は新潟で生まれ21歳の時に福島県相馬郷に移住。廃村を復興し村会議員なども務め、人々から信望の厚い人で、新館村（現在の飯館村の中央部）の基礎をつくった人物だそうです。しかし、日清戦争（明治27、28年）の影響で村内の貧しい農民たちが生活



山形神社  
同時期に曙地区の開拓をすすめた山形団体縁の「山形神社」。ここには、山形団体の団長太田豊治氏の功績を讃える石碑があった。

永井庄助という人物は、新館村、名寄市のふたつの町を興したただけではなく、そこに暮らす人づくりやまちづくりに尽力した人なのだと思いますが、団体規模が大きい山形団体の団長・太田豊治氏の方が知られているようです。これまで知る機会がなかった縁の人物を知ることができたのは、実際に訪れたことと「碑文」のおかげ。文字に遺してくれた方々にも感謝です。



難に陥っていくのを目の当たりにし、農民救済のため単独で北海道に渡り、この地に入植を決め一旦帰郷。団体を組織して入植しました。この時、庄助氏は60歳をこえていました。  
一本の道も水路もなく、鬱蒼と樹木や草が茂り、熊、狐、狸の巣窟だった土地にきた女性や子どもたちは、故郷を懐かしみ何日も泣いていたそうです。でも、彼は二宮尊徳の教えに基づいて人々を導きながら奮闘、遂に美しい田園と集落を拓きました。同時期に入植した、山形団体とともに拓いたこの地域が名寄市の開基となっていました。

南幌町で「芋煮会」を開催しました！

9月24日(日)、快晴の南幌町三重湖公園キャンプ場で「芋煮会」を開催しました。この日初めて知り合う方や久しぶりに顔を合わせた方など17名が5市町村から集合しました。

交流会の提案を寄せてくれた穴戸隆子さんと、芋煮づくりや準備に集まってくれたみなさんと、手際よく調理も設営も進んでいきます。

会場となった湖畔では、当初「テーブルと椅子を外に出して…」と見ているのですが、青空と芝と景色を見て「やっぱり、シートを敷いて座って食べたいね！」と、キャンプ場にブルーシートをお借りしました。この日の三重湖公園キャンプ場はまだまだシーズン中だったので、たくさんのお客さんで大賑わい。シートを広げているとすぐ隣でキャンプをしていた方に「これからなにが始まる



大きなブルーシートを広げて食事！朝、テントでいっぱいだったキャンプ場も、食べ始める頃にはだいぶ空いてきました。

んですか？」と笑顔で声をかけられました。「芋煮会です！」というところ「あ！東北の芋煮会？」と即答いただきました。芋煮会の知名度は高いですね。

雲ひとつない晴天の中、屋外で食べる芋煮はまた格別。アンケートでも、外でみんなと食事ができて楽しかった、という声が多くありました。穴戸さんの味付けも美味しくて、みなさんおかわりが進みます。「本当はここにビールがあったら(笑)」



雲ひとつない空の下、芋煮とおにぎりを美味しくいただきました。穴戸さん、そして準備を手伝ってくれたみなさま、ありがとうございました！



そんな声を聞いたことを思い出し、あとで調べてみたら、仙台の某ビアホールで「芋煮食べ放題」というシーン企画があることを知りました。北海道でいうところの「ジンギスカン食べ放題」みたいな感じでしょうか？

おなかいっぱいいただいたところで、一人ひとり自己紹介をお願いしました。この日、大人に混じって参加してくれた中学生のYくん。避難してきた時はまだ0歳と聞き、その成長した姿に今日までの時を思い、いろいろなのが頭の中をめぐりました。

「芋煮会」、本当は炉を組んで火をおこして、お鍋を真つ黒にしながら作ると聞きました。今度はみんなで火を囲みながら、話ができると思いますね。

心のケア事業ではこんなこともしています！  
情報共有ミーティング

北海道「道内避難者心のケア事業」では、みなさまからのご相談を受ける相談窓口、情報紙の発行や交流会を開催するほかに、行政、社会福祉協議会、災害支援に関わる方々を対象とした「情報共有ミーティング」を実施しています。目的は、東日本大震災で起きたことを伝え、今後の災害被災者支援に活かしていくためです。

3年前に行ったアンケートの回答の中に、「二度と同じ思いは繰り返したくない」「被災の経験が社会全体には活かされていない」「(コロナ禍において)分断が生まれる構造が繰り返されている」といった声がありました。こうした声をふまえ、「3・11で起きたこと、起こっていること」や災害によって生じたさまざまな被害について、避難者受入や災害支援の第一線で動く方々に知っていただく機会が必要と考え、企画しています。

参加いただく行政・社協の方の中にも「震災当時は学生でした」という方もおり、今のことはもちろん、当時のことや今に至る経緯を知る機会として、今年度は年明けにも実施します。

これまで実施してきた内容

- 2021年度  
 「北海道原発事故避難者の精神的苦痛の大きさについて」  
 「災害の被害を低減する地域社会をどう制度設計するか」  
 ゲスト：竹沢尚一郎氏  
 (国立民俗学博物館・総合研究大学院大学 名誉教授)
- 2022年度  
 「今だからみえる広域・在宅避難者支援  
 ～災害ケースマネジメントの展開から考える～」  
 ゲスト：菅野 拓氏  
 (大阪公立大学大学院文学研究科  
 人間行動学専攻地理学専修 准教授・博士(文学))
- 2023年度(1回目)  
 「福島 あの日から12年～広域避難者支援の現場から～」  
 ゲスト：鈴木 康氏(元・会津若松市社会福祉協議会 地域福祉課長)  
 進行：篠原辰二氏(北の国災害サポートチーム 代表)



# 寄稿

# 1ページのたより

もうすぐ子どもの誕生日。  
12歳になるその子は、あの時すでにひっそりとお腹にいた事になる。  
あの時の地震の後、妊娠に気づいていなかった私は、すぐに故郷の北海道に帰ろうと思った。ぞっとするほどの鳥の群れが、南から北に向かうのを見たからだ。  
それは原発が爆発した日。  
北に向かう鳥の、動物的な本能を見たような気がして、ハッとしたのだ。

色々なものがなくなった時、自分も子を守る、動物のカンのようなものに動かされたのかもしれない。

北に帰ってきた私たちの意識は、地震を体験した事によって大きく変わっていた。

何を優先するのか、何が大事なのか、気付かされた。それが地震だった。

すべての機能が止まり、原始に戻った時、ただ生きることしか考えなかった。この水をいつ飲むか、次はいつ何を食べられるのか…

食べる事は生きる事である事を思い知った。

そして生きる事に直結した仕事がない、と思うようになる。

この思いが自然と農業に向くには時間はかからなかった。

そのために農村に移住し、6年間の農業経験の後、4年前にミニトマトで新規就農する事ができた。  
私達にとって、地震は生き方すら変えるきっかけになった。  
土の匂いのするところで子どもを育てたい、という希望も叶い、今、この生活が幸せだと思える。

だから、地震は悪いことばかりではなかった。後悔しないように生きよう、続くと思っていた事が続かなくなってしまう事があるから、と。

来年も必ず見ようと思った塩竈神社の帆手祭り、リサイクルショップで見つけた、ノリタケのストロンウエア、旦那が通勤で使っていたお気に入りのMTB、私がおもちゃで買ったホワイトデーのお返し、現地で食べたかった定規さんの三角揚げ、スーパーさいちのおはぎ、仙台

また今度、と思っていた。また今度、は無かった。

の河原で食べるはずの芋煮、買わなかった気仙沼海の家のおにぎり。また今度、と思っていた。また今度、は無かった。

だから、後悔しないように生きよう。そう思っていた、はずだった。

今年の6月、お義母さんが亡くなった。肺がんが見つかったから3ヶ月経たずに。  
焼肉屋のお義母さんが作っていた自家製のタシ、大晦日に孫の分まで大量に作るうま煮、食べる食べるとテーブルいっぱいになる料理の数々、いつか作り方を聞こうと思っていた。

いつでも聞けるような気がしていた。いつでも聞けるような気がしていた。

また今度、と思っていた。また今度、は無かった。

結局私は、またすぐ後悔することになった。

もう後悔したくないと思っていたのに。

先日、南幌での芋煮会に参加させて頂き、やり残していた事を一つ体験することができた。

芋はじゃがいもでしかない北海道で、里芋の入った芋煮を食べながら、お義母さんのうま煮には里芋が入っていたな…と思い出していた。

味の記憶を辿りながら、今年の大晦日は里芋でうま煮を作ってみよう。食べきれないほどいっぱい作って、みんなに食べてもらう事が何よりも幸せだったのであろうお義母さんへの、せめてもの供養になるように。

宮城県仙台市宮城野区で被災

新篠津村在住 原田 理恵



なんでもあと回しにしな〜い!

12年! よくぞ育ってくれました! トマトもね  
わーい来週誕生日! お腹の乗ってるよ  
あの子がお腹にいるのにまだ気づいてなかったのよね...

あの子がお腹にいるのにまだ気づいてなかったのよね...  
東北でやり残したこともたくさんあったなあ? やっておけば良かった...  
ん? 芋煮会!?

9月24日  
12年前に宮城に住んでいた頃から芋煮会に来てみたかったのよ  
やりたかった体験をひとつクリア!

里芋といえは お義母さん...  
大晦日には、うま煮を山ほどご馳走してくれたっけ。  
量だから美味い味がある。  
そうだ! 今年の大晦日はお義母さんの里芋たっぷりうま煮をどっさり作ろう!  
みんな! 今から特大のお鍋を買いに行こう!

また今度、なんて無いかも!?今が肝心!

